

評価 (C) ↓ 改善 (A)
令和5年度
評価 (C) 等を踏まえた改善方策 (案)]

(7) 発達障害のある人等に対する支援	
発達障害者支援地域協議会の開催	発達障害児者支援における効果的な情報共有の仕組みや支援者であるコーディネーター間の仕組みについて検討・整理をするため協議会とは別にワーキンググループを設置し協議をしました。令和6年度はワーキンググループの検討結果を踏まえ、発達障害者支援センター「つばさ」を中心に、関係機関の協力を得て効果的な情報集約・情報発信のための検討等を進めます。
発達障害者支援センターによる相談支援	延べ相談件数は2,740件と減少しましたが、利用者の悩みや不安の解決につながる事ができました。引き続き、各関係機関と連携を図り、支援の場を広げられるように努めます。
発達障害者支援センター及び発達障害者地域支援マネージャーの関係機関への助言	教育機関や医療機関など、多くの関係機関と連携した。相談支援や助言指導、研修、セミナーなどを実施した。引き続き、各関係機関との連携を図り、支援の場を広げられるように努めます。
発達障害者支援センター及び発達障害者地域支援マネージャーの外部機関や地域住民への研修、啓発	関係機関に対し、相談支援や助言指導、研修、セミナー等を実施した。引き続き、研修・啓発に尽力し、発達障害者支援について広く普及できるように努めます。
ペアレントトレーニングやペアレントプログラム等の支援プログラム等の受講者数	発達障害者支援センター「つばさ」にて「発達や行動が気になる子ども」勉強会を開催した。引き続き、障害児者の家族を支援するためペアレントトレーニング等各種支援プログラムを充実させ、受講者を増やせるよう努めたい。
ペアレントメンターの人数	現在18名が登録。市民講座等での子育て体験の発表や相談カフェ等に先輩保護者として参加し、地域で当事者同士が支え合う仕組みに協力してもらっている。引き続き、要請に対応できるよう準備に努めます。
ピアサポートの活動への参加人数	令和5年度は、延べ64名がピアサポート活動に参加している。今後も、当事者同士が支え合う活動として、取組みを継続したいと思えます。
(8) 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築	
保健、医療及び福祉関係者による協議の場	市の付属機関である「精神保健福祉審議会」を活かして協議を行いました。
精神障害のある人の地域移行支援	概ね見込み値どおりであり、一定の成果を得ていると考えます。自立支援協議会で開催する連絡会議や研修会を通じて相談支援専門員の質の向上を図るとともに、関係機関との連携強化を進めます。
精神障害のある人の地域定着支援	概ね見込み値どおりであり、一定の成果を得ていると考えます。自立支援協議会で開催する連絡会議や研修会を通じて相談支援専門員の質の向上を図るとともに、関係機関との連携強化を進めます。
精神障害のある人の共同生活支援	概ね見込み値どおりであり、一定の成果を得ていると考えます。自立支援協議会で開催する連絡会議や研修会を通じて質の向上を図るとともに、関係機関との連携強化を進めます。
精神障害のある人の自立生活援助	障害福祉サービス所管課である障害者支援課を含めた関係機関との情報共有、連携強化を図ります。
(9) 相談支援体制の充実・強化のための取り組み	
総合的・専門的な相談支援	見込みどおり実施し、一定の成果を得ていると考えます。自立支援協議会で開催する連絡会議や研修会を通じて相談支援専門員の質の向上を図るとともに、関係機関との連携強化を進めます。
地域の相談支援事業者に対する訪問等による専門的な指導・助言	見込み値を上回っており、一定の成果を得ていると考えます。自立支援協議会で開催する連絡会議や研修会を通じて相談支援専門員の質の向上を図るとともに、関係機関との連携強化を進めます。

評価 (C) ↓ 改善 (A)

令和5年度

評価 (C) 【目標等を踏まえた評価、改善方策(案)】

地域の相談支援事業者の人材育成の支援	見込み値を下回っているものの、一定の成果を得ていると考えます。自立支援協議会で開催する連絡会議や研修会を通じて相談支援専門員の質の向上を図るとともに、関係機関との連携強化を進めます。
地域の相談機関との連携強化の取り組み	見込み値を上回っており、一定の成果を得ていると考えます。自立支援協議会で開催する連絡会議や研修会を通じて相談支援専門員の質の向上を図るとともに、関係機関との連携強化を進めます。
(10) 障害福祉サービスの質を向上させるための取り組み	
障害福祉サービス等に係る各種研修の活用	福祉事務所職員を対象に障害福祉サービス等に関する研修を行っています。
障害者自立支援審査支払等システムによる審査結果及び指導監査結果の関係自治体との共有	・年に2回、関係自治体等と連携して情報共有を行うとともに、必要に応じて関係自治体と随時連携して情報共有を行っています。 ・新しい審査ソフトの導入により、給付費請求データの抽出（特異な傾向を示す加算の取得等）を行い、事業所指導に活用しています。
(11) 地域生活支援事業	
必須事業	
(ア) 理解促進研修・啓発事業	
障害者差別解消・共生社会推進事業	障害を理由とする差別の解消を効果的に推進するため、市民及び事業者に対し、出前講演等を実施するとともに、助け合いのしるし「ヘルプマーク」の周知啓発を行いました。引き続き啓発活動に積極的に取り組むとともに、広報の手法を工夫するなどして市民及び事業者に対し、合理的配慮について理解を深めてもらうことが必要と考えます。
触法障害者支援事業	見込みどおり実施し、一定の成果を得ていると考えます。引き続き、入口支援を行うとともに、支援機関との連携・協力体制の強化に努めます。
(イ) 自発的活動支援事業	
ピアカウンセリング事業	概ね見込み値どおりであり、一定の成果を得ていると考えます。引き続き、ピアカウンセラーによる相談対応体制を維持し、障害のある人や難病患者が自立した日常生活を営めるように支援します。
地域精神保健福祉対策（ピアサポート事業）	継続してピアサポーターの養成を行い、市民や当事者・家族、支援者に対して、ピアサポーターが体験談を話し、精神障害について理解を深める取り組みをすすめました。今後も、ピアサポーターの活用の機会を活かせるよう支援を継続します。
本人活動支援事業（ボランティア参加促進）	当初の見込みを上回っており、一定の成果を得ていると考えられます。今後も引き続き、障害のある人がより参加しやすい活動内容なども検討しつつ、障害のある人の社会参加を推進します。
(ウ) 相談支援事業・専門性の高い相談支援事業	
障害者相談支援事業（障害者基幹相談支援センター）	見込み値どおりであり、一定の成果を得ていると考えます。引き続き、訪問支援（アウトリーチ）を含めたきめ細かな相談支援を行うとともに、関係機関との連携強化や相談内容の傾向分析に努め、障害のある人が地域で自立した生活を営むことができるように支援します。
障害者基幹相談支援センター等機能強化事業	見込みどおり実施し、一定の成果を得ていると考えます。引き続き、訪問支援（アウトリーチ）を含めたきめ細かな相談支援を行うとともに、関係機関との連携強化に努め、障害のある人が地域で自立した生活を営むことができるように支援します。
住宅入居等支援事業（居住サポート事業）	見込みどおり実施し、一定の成果を得ていると考えます。引き続き、総合相談窓口である障害者基幹相談支援センターと一体的に運用することにより、居住に関する相談に限らず幅広い支援を行います。また、病院や相談支援事業所と連携し、相談者の地域移行を支援します。
発達障害者支援センター運営事業	前年度に引き続き、利用者の悩みや不安について解決につながる事ができたと考えます。引き続き、各種相談支援に加え、発達障害支援者の育成にも努めます。

<p>評価 (C) ↓ 改善 (A)</p> <p>令和5年度</p> <p>評価 (C) 【目標等を踏まえた評価、改善方策 (案)】</p>	<p>(エ) 成年後見制度利用支援事業・成年後見制度法人後見支援事業</p>	
	<p>成年後見制度利用支援事業</p>	<p>概ね見込み値どおりであり、一定の成果を得ていると考えます。引き続き、制度の分かりやすい周知に努め、成年後見制度利用支援を行います。</p>
	<p>成年後見制度法人後見支援事業</p>	<p>見込みどおり実施し、一定の成果を得ていると考えます。引き続き、市民後見人を養成していくよう努めます。</p>
	<p>(オ) 意思疎通支援事業</p>	
	<p>手話通訳者派遣事業</p>	<p>当初の見込みを下回ってはいるものの、派遣数は2,500件を超えており、今後も高いニーズがあると考えられます。引き続き、利用者への適切な派遣を実施し、コミュニケーション支援を図るよう努めます。</p>
	<p>要約筆記者派遣事業</p>	<p>当初の見込みを下回ったものの、利用希望者に対して適切に派遣を行いました。今後も高いニーズがあると考えられるため、引き続き、聴覚障害のある人が社会参加できるよう、適切な派遣を実施するよう努めます。</p>
	<p>重度障害者入院時コミュニケーション支援事業</p>	<p>H30年度の法改正により、障害福祉サービス（重度訪問介護）で入院時のコミュニケーション支援が可能となったため、R2年度に引き続きR3年度からR5年度も本事業での利用はなかったと考えられます。しかし、今後も対象の方が入院した場合には必要な事業と思われるため、事案発生時には速やかに支援ができるよう努めます。</p>
	<p>盲ろう者通訳・ガイドヘルパー派遣事業</p>	<p>当初の見込みを上回っており、昨年度と比較しても増加傾向にあるため、今後も高いニーズがあると考えられます。引き続き、利用者のニーズを把握し、適切な派遣を実施するよう努めます。</p>
	<p>(カ) 日常生活用具給付等事業</p>	
	<p>介護・訓練支援用具</p>	<p>ほぼ見込みどおりに達成しており、事業は順調に推移していると評価しました。過去の給付実績、市場価格、他都市の給付状況等を調査し、今後も適切な事業運営の維持に努めます。</p>
	<p>自立生活支援用具</p>	
	<p>在宅療養等支援用具</p>	
	<p>情報・意思疎通支援用具</p>	
	<p>排泄管理支援用具</p>	
	<p>居宅生活活動補助用具 (住宅改修費)</p>	
<p>(キ) 奉仕員養成研修事業</p>		
<p>手話奉仕員養成事業</p>		

評価 (C) ↓ 改善 (A) 令和5年度 評価 (C) 目標を踏まえた評価、改善策 (案)	手話通訳者養成事業 要約筆記者養成事業 盲ろう者通訳・ガイドヘルパー養成事業	概ね見込みどおりであり、一定の成果を得ていると考えられます。派遣件数などからも、高いニーズがあると考えられます。見込みを下回っている事業を中心に周知を図り、受講者の拡大に向け取組みます。
	(ク) 移動支援事業	
	移動支援事業	見込みと比較すると、利用者数及び利用時間は下回るものの、前年と比較すると利用者数及び時間数も増加していることから利用希望者に対して適切にサービスを提供できていると考えます。引き続き、障害のある人、障害のある子どもの社会参加のための外出を支援していきます。
	重度障害者大学等進学支援事業	当初の見込みを下回ってはいるものの、利用希望者に対して適切にサービスを提供できていると考えます。引き続き、利用者に適切な派遣を実施し、大学等修学における支援を図るよう努めます。
	(ケ) 地域活動支援センター機能強化事業	
	地域活動支援センター事業	引き続き、障害者に創作的活動などの機会の提供、社会との交流の促進を実施する地域活動支援センターに助成等を行っていきます。
	(コ) 広域的な支援事業	
	精神障害者地域生活支援広域調整等事業	引き続きピアサポーターの養成と活用を継続し、精神障害のある人の地域移行に向けた取り組みを進めます。また、ピアサポーターの活用場の拡大に向けた普及に努めます。
	任意事業	
	(ア) 日中生活支援事業	
	福祉ホーム	引き続き、障害のある人が福祉ホームにおいて低額な料金を、居室その他の設備を利用でき、日常生活に必要な便宜を受けることができるように運営経費の補助を行うことにより、地域生活を支援します。
	生活訓練等・中途視覚障害者緊急生活訓練	見込みを40%以上、上回った。要因は、申請者数の増加。事業は順調に推移していると考えます。引き続き訓練希望者や相談者のニーズを十分に理解し、個々の状況に応じた訓練等を行っていきます。
	訪問入浴サービス	当初の見込みを下回ってはいるものの、利用希望者に対して適切にサービスを提供できていると考えます。引き続き、障害のある人、障害のある子どもの日常生活を支援していきます。
	日中一時支援事業 (日帰りショートステイ)	見込みと比較すると利用者数・利用回数は達成しています。特に利用回数については、前年と比較すると大幅に増加していることから利用希望者に対して適切にサービスを提供できていると考えます。引き続き、障害のある人、障害のある子どもの日常生活を支援していきます。
	(イ) 社会参加支援事業	
	障害者スポーツ大会	北九州市障害者スポーツ大会については、昨年より大きく参加者数が増加し、247人の参加がありました。スポーツを通じた社会参加を促進するため、参加者の拡大を図ります。スポーツ大会の開催については、コロナ禍以前の参加者数まで増やすためにも関係団体と連携を図り、広くPRする必要があります。
	障害者スポーツ教室	障害者スポーツ教室の箇所数については、目標を上回ることは出来ませんが、昨年度よりも増加させることが出来ました。スポーツを通じた社会参加を促進するため、巡回スポーツ教室などの実施箇所の拡大を図ります。スポーツ教室の開催については、より参加者のニーズに合ったものとする必要があります。

評価 (C) ↓ 改善 (A)	令和 5 年度	評価 (C) 目標を踏まえたまま評価、改善方策 (案)	点字・声の広報等 発行事業	広報物の発行回数の減少に伴い、点字・声の広報物に関しても発行回数が減少しましたが、必要に応じ点字版及び音声版を作成しました。今後も視覚に障害のある人の社会参加を図るため、情報保障に努めます。
			点訳奉仕員養成事業	当初の見込みを下回ったものの、近い実績を達成しました。今後もコミュニケーション支援を増強するために、事業の周知を図り、受講者の拡大に向けた取り組みが必要です。
			朗読奉仕員養成事業	
			パソコンサポーター 養成・派遣事業	養成人数は当初の見込みを上回りました。また派遣に対しても高いニーズが見込まれることから、養成事業を周知し、受講者の拡大に向けた取り組みを実施します。
			芸術文化活動振興	順調なサービス利用が行われています。 北九州市障害者芸術祭の作品出展数については、昨年度を大きく上回る268点の応募がありました。文化芸術活動を通じた社会参加を促進するため、更なる出展数の拡大を図ります。 障害者芸術祭の開催については、関係団体と連携を図り、広くPRする必要があります。